

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 東京都稲城市立稲城第一小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒206-0802  
東京都稲城市東長沼 956

E-mail inagile@educet.plala.or.jp

Website academic1.plala.or.jp/ine1e/

児童生徒数 男子 297名 女子 292名 合計 589名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校では、ESDの取組一環として、第5学年の総合的な学習の時間において、東京農工大学の指導と協力を受け「森林プログラム」というプログラムを計画し、年間を通して授業を実施した。これは昨年度も実施している。

・プログラム名「森林プログラム」

・プログラムの概要

木を中心テーマとして、木について知る活動や、木の光合成による炭素固定を調べることで、木は地球環境にとって大切な役割があることを理解する。また、学校や地域の木について調べ、地域の人たちにその大切さや役割を発信することで、地域環境に興味を持ち、地域の自然を守ることの大切さや困難さ、自分たちでもできることがあることなどを知り、自然と人間の共存について考える。

・プログラムの目標

①木について学んだり調べたりすることから、自然の素晴らしさや自然の大切さに気付く。

②木の炭素固定量を調べることで、木は地球温暖化防止に大切な役割があることを理解する。

③学校や地域の木を調べることで、積極的に地域の自然を守り・育てなくてはならないという意識を持ち、そのために必要な思考力・判断力等を育む。

③学校や地域の木について地域に発信することで、「自分のことから行っていこう」とする意欲を育てる。

・プログラムの指導計画の概要

| 時                          | 学習課題                 | 活動・学習内容   | 指導・支援の方法、ポイント等<br>〔教材・必要物〕<br>【育まれる「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」】  |
|----------------------------|----------------------|---|---|
| 1<br>・<br>2<br>時<br>間<br>目 | 木を感じる<br>ゲームをし<br>よう | ○木からできているものクイズを行う。<br><br>○木と草の違いは何か考える。<br><br>○森の中での活動を行う。<br>・カモフラージュのゲームをする。<br><br>・目隠しをして木に触れ、木を感じ取るゲームをする。 | ・木からできているもの・できていないものをたくさん並べ、木からできているかどうかを当てさせる。<br>〔木からできているもの・いないもの10~20個〕<br>・木と草の違いをきっかけに、森林を構成する木についての理解を深める。<br>・木の近くにいろいろな人工物を隠しておき、それを見つけさせる。グループ対抗戦にしてもよい。<br>〔自然に溶け込む人工物20個くらい〕<br>・目隠しをするときは、二人組以上にして、ゆっくり歩き転ばないように注意するように指導する<br>〔目隠し〕 |

|  |             |  |   |
|--|-------------|--|---|
|  |             |  | 【伝達】【関連】※1  |
| 3<br>・<br>4<br>・<br>5<br>時間<br>目           | 光合成を調べてみよう  | <p>○木の仕組みを知り、光合成について学び、光合成に必要なもの・できるものを理解する。</p> <p>・植物の葉の日光が当たったところだけにでんぷんができることを実験で確かめる。</p> <p>・みんなで木のそれぞれの部分になり、一本の木を表現する。</p> <p>○学校にある木を決め、木の一年間の炭素の固定量を調べる。</p> <p>・胸高直径を測る<br/>・木の種類を調べる</p> <p>○地球環境と木の役割について考える。</p> | <p>・木は、樹皮・師部・形成層・辺材・心材・根・葉でできていてそれぞれには役割があることを知らせる。</p> <p>・光合成は、光のエネルギーにより、水と二酸化炭素から養分と酸素を作り出すことを理解させる。<br/>[アルミホイル・シャーレ・よう素液]</p> <p>・木の部分（樹皮・師部・形成層・辺材・心材・根・葉）の役割を考えながら、表現させる<br/>[役割カード]※2</p> <p>・木の1年間の炭素固定量は、胸高直径と樹種から算出させる。※3<br/>[ワークシート・図鑑]</p> <p>・地球温暖化に二酸化炭素が影響していることを知らせ、そこから地球温暖化と木の役割について考えさせる。【協力】【関連】</p> |
| 6<br>・<br>7<br>・<br>8<br>・<br>9<br>時間<br>目 | 地域の木を調べてみよう | <p>○学校や地域の木について調べる視点を出し合い、自分たちで調べたい課題を発見する。</p> <p>○グループごとに自分たちで木の課題について調べる。</p> <p>○調べたことをパソコンのスライドショーで発表する準備をする。</p> <p>・地域や学校の環境改善へのメッセージを入れる。</p>  | <p>・考えられる視点<br/>「校庭の樹木マップを作る。」「学校の樹木の炭素固定量調べ」「地域で一番太い木の炭素固定量調べ」など</p> <p>・今までに習ったことを活かしたり、新たな視点で調べることに挑戦したりさせる。</p> <p>・スライドショー作成用にグループに一台デジタルカメラを持たせて調べさせる。[バインダー・デジタルカメラ・パソコン・地図など]<br/>【協力】【参加】</p>  |
| 10<br>・<br>11<br>時間<br>目                   | 木の大切さを知らせよう | <p>○地域の人を招いて、スライドショー発表会を行い、学校や地域の木の大切さを知らせる。</p>   | <p>・地域の人たちからの感想や意見も話してもらい、地域の今後を考えるようにする。<br/>[パソコン・スクリーンなど]【伝達】</p>  |

※第5学年における学習をさらに発展させ、次年度第6学年において「森林プログラム」を継続実施する。第6学年では夏季休業中に、長野県野沢温泉村への

宿泊体験学習を実施する。その際、本校が位置する東京都稲城市内の多摩丘陵に見られる森林、本校周辺の住宅地や農地における植物の様子と現地野沢温泉村の自然との比較等の学習を進める。

その他、主な本校におけるESDの取組として次の学習を行った。

- 第1学年 栽培活動（朝顔、さつまいも）、伝統文化の学習（昔遊び名人になろう）
- 第2学年 栽培活動（各種野菜）、郷土愛・伝統文化（地域の人を招待しよう）
- 第3学年 食育・栽培・地域の産業（大豆をしらべよう、梨づくり、豆腐づくり）
- 第4学年 環境学習（環境調べ隊、地域の水土と生活）、福祉学習（共に生きる）
- 第5学年 環境学習（環境問題調べ・発表会）、地域理解（地域安全マップ作成）
- 第6学年 国際理解（世界の国調べ、外国語学習）、キャリア教育（卒業に向けて）

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）